

ISO/TC20「航空機および宇宙機」

第59回国際会議報告

令和7年（2025年）10月14日～17日、ISO/TC20「航空機および宇宙機」技術委員会第59回国際会議が京都にて開催されたので、その概要を報告する。

1. はじめに

ISO（International Organization for Standardization、国際標準化機構）は、様々な重要技術分野において国際的な標準化や規格策定を推進するために1947年に設立された、スイスのジュネーブに本部を置く国際機関であり2025年現在175カ国が参加している。ISOには274の分野において355のTC（Technical Committee、技術委員会、非活動含む）が設置されている。

その中で航空機および宇宙機に関する国際規格を扱うTC20は、国際投票権を有する17ヶ国（Pメンバー国）と投票権を持たない29ヶ国（Oメンバー国）から構成され、下部組織として11個のSC（Sub Committee、分科委員会）を有している。（下表参照）

議長国は任期3年で、Pメンバー国の投票に

より選出（再選も可）され、TCの場合は幹事国がISOのTMB（Technical Management Board、各TCより上位のISO中央事務局に設置される技術管理評議委員会）に推薦することにより決定される。一方、各SCの議長国は親TCにおけるPメンバー国の投票により決定される。

なお、幹事国についてはそのTCまたは各SCが新たに設置されたときに引き受けた国が継続的に就いている。

2. 概要

TC20第59回国際会議は日本の京都にて対面方式（一部オンラインとのハイブリッド方式）で開催され、議長国アメリカをはじめ、日本、イギリス、イタリア、フランス、ドイツ、スイス、スウェーデン、ブラジル、モン

表. ISO/TC20構成

ISO	議長国	幹事国	日本の参加地位
TC 20 航空機および宇宙機	アメリカ	アメリカ	P
SC 1 航空宇宙電気系統の要求事項	中国	中国	P
SC 4 航空宇宙ボルト、ナット	ドイツ	ドイツ	P
SC 6 標準大気	ロシア	ロシア	不参加
SC 8 航空宇宙用語	ロシア	ロシア	不参加
SC 9 航空貨物及び地上機材	フランス	フランス	O
SC10 航空宇宙用流体系統及び構成部分	ドイツ	ドイツ	P
SC13 宇宙データ及び情報転送システム	日本	アメリカ	P
SC14 宇宙システム及び運用	アメリカ	アメリカ	P
SC16 無人航空機システム	アメリカ	アメリカ	P
SC17 空港インフラ	アメリカ	アメリカ	P
SC18 材料	中国	フランス	O

ゴル、中国が対面にて、フィンランドとロシアがオンラインにて合計40名が参加、日本からは、馬淵国内委員長（KHI）、瓜生国内委員代理（島津製作所）、関本国内委員代理（島津製作所）、原野（日本航空宇宙工業会）の4名が出席した。

3. 会議結果

TC20国際議長のDr. Richard J. Forselius（ロッキードマーチン）による開会の挨拶、馬淵国内委員長によるホスト国挨拶の後、会議参加者の自己紹介に続いて総会が開催された。

会議概要は次の通り。

(1) TC20ステータス報告

昨年の第58回会議の議事録確認の後、国際事務局よりTC20委員会および各分科委員会のステータス報告が行われた。

2025年はPメンバー国数に変化はなく17ヶ国のまま、Oメンバー国はハイチが加わり29ヶ国となった。

(2) SC1活動状況報告

参加国としてはPメンバーにハイチが加わり11ヶ国となった。Oメンバーは12ヶ国で変

更なし。過去3年間の非活動Pメンバー国として昨年と同様にインド、ウクライナが名指しされた。

また、WG15の部会長が日本からドイツ（Dr. Andreas Ueberschaer）に交代したことが正式に報告された。

新たに、電動およびハイブリッド航空機の電気システム分野における規格ニーズを調査し、SC1に提言を行うためのアドホックグループAHG1を設置し、ロシアのMr. Dmitry Shevelevがリードすることも報告された。AHG1についてはTC20のPメンバー国に向けて検討に参加してほしい旨の要請があった。

発行済み規格64件、5年毎の見直しにより継続となった規格9件、廃止規格0件、規格化準備中の案件8件、新規検討案件5件とのステータス報告があった。

SC1の次回国際会議は2026年1月にデンマークのコペンハーゲンで開催される予定。

(3) SC4活動状況報告

エジプト、インド、カザフスタンが抜けてPメンバーが8ヶ国に減り、Oメンバーにその3国が加わると同時にスロバキアが脱退し



集合写真

11ヶ国となった。5年毎の見直し中の規格が5件、さらに2件の新規プロジェクトが進行中であるとのことであった。SC4では複数のPメンバーが降格したことを受け、より多くのメンバー国の参加を要請、特に米国に対しPメンバーへの加入検討を求めた。また、見直

し対象規格と新規プロジェクト対応強化のため、現行ワーキンググループの再編を検討中との報告があった。

(4) SC6活動状況報告

議長国・幹事国であるロシアは前回同様オンラインでの参加となった。SC6は昨年以降



会議風景

に全く活動していないため、報告事項も特に無し。

(5) SC8活動状況報告

SC6同様、議長国・幹事国であるロシアは前回同様オンラインでの参加となった。SC6とSC8はロシアによるウクライナ侵攻が原因で過去4年の間、国際会議を開催できておらず、TC20参加国からも懸念の声が上がっていた。ISO中央事務局（スイス）から、来年に国際会議が開催できるよう打開策を検討する旨の発言があった。

(6) SC9活動状況報告

エジプトがOメンバーからPメンバーに復活し、フィンランドがPメンバーからOメンバーに降格、さらにスロバキアがOメンバーから脱退したことで、Pメンバー14ヶ国、Oメンバー12ヶ国となった。

発行済み規格75件、規格化準備中の案件1件とのステータス報告があった。

SC9の次回国際会議は、2026年に中国の北京で開催する方向で検討中とのこと。

(7) SC10活動状況報告

参加国はPメンバー12ヶ国は変更なし、Oメンバー国はスロバキアが脱退して11ヶ国となった。

非活動Pメンバー国として、エジプト、インド、トルコ、ウクライナが警告された。

(8) SC13活動状況報告

SC13からの報告は無かった（議長国は日本）。

(9) SC14活動状況報告

参加国は韓国とスウェーデンがPメンバー国に加わり、18ヶ国となった。Oメンバー国はスロバキアが脱退したため14ヶ国となった。

WG3のスコープであった「オペレーションおよび地上支援」が「オペレーション」のみに変更となり、「地上支援」はWG14に移管されることとなった旨の報告があった。

(10) SC16活動状況報告

スロバキアが脱退し、インドがOメンバー国に降格したためPメンバーは25ヶ国となり、Oメンバーは11ヶ国となった。



会議風景

(11) SC17活動状況報告

参加国はPメンバー10ヶ国、Oメンバー8ヶ国で変更なし。11月にSC16との合同会議を開催し、ISO 5149（冷凍システム及びヒートポンプ-安全及び環境要求事項、TC 86所掌）の改定について議論を行うとのこと。

(12) SC18活動状況報告

参加国はPメンバー6ヶ国、Oメンバー5ヶ国で変更なし。昨年の報告と同様、中国とフランス以外の国が全て非活動国のままであることから、TC20の全Pメンバー国に対し積極参加を呼び掛けていた。日本はSC18のOメンバー国であるが、Pメンバー昇格に向けてJISCのコンタクトポイントを紹介してほしい旨の要請があった。

(13) 製造プロセスにおけるAIの利用について

昨年の総会で議決されたアドホックグループ（TC20/AHG01;AI for aerospace manufacturing）への専門家派遣要請に対し、これまでロシアと中国以外の参加表明が無かったため、アドホックグループの継続を行わないことが決定された。今後はISO/IEC JTC 1/SC 42またはTC 299にて議論されることとなる。

(14) 次回の予定について

第60回会議については、ISO本部のあるスイス・ジュネーブでの2026年10月開催が提案された。スイス側の受け入れ可否の返答を待って正式に通知されるとのこと。

4. 所感

一部の参加者から、ロシアによるウクライナ侵攻の影響が長引き国際会議が4年間も開催されていないSCが存在すること、ウクライナは戦時下であり国際規格の検討などに人的リソースを割いている余裕がないこと、引き続き中国本土への渡航を制限している国が複数あることなど、多数の国が参加者を対面会議に派遣できる開催国を探すことが以前に比べて難しいとの発言があった。

国際情勢の変化や影響を敏感に受けるISOのような会議体は今後どのような形に変わっていくのか、前例方式を好む日本は柔軟に対応していけるのか、個人的には漠然と不透明感を感じる会議であった。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 業務部 部長 原野 清隆〕



この事業は、オートレースの
補助を受けて実施したものです。
<http://hojo.keirin-autorace.or.jp>